

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 瑞穂会	代表者	手嶋 寛人	法人・ 事業所 の特徴	高齢者家族の利用者・家族が自営業を営んでいる利用者・訪問リハビリを利用されている利用者など多様な利用者を受け入れ在宅生活・在宅介護の支援を行っている。利用者や家族の状態、状況変化や要望に応じての通い・泊りや利用時間の変更等にも柔軟な支援を心掛けている。
事業所名	小規模多機能 やはぎ苑	管理者	後藤 恒祐		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	2人	5人	人	人	1人	人	5人	人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価を通して支援の方向性をしっかり意識し、利用者への支援、地域と関りが向上するよう業務に取り組む。	自己評価と事業所評価を通して、支援の方向性への意識の向上は段々と高まっている。利用者への直接的な支援に関しては少しずつ向上も見られるが、地域との関りは、職員の人的な問題や時間的制約、利用者の状況等があり、十分な関りを持つことが難しかった。	『ほとんどできていない』の結果は貴重。何故できていないのかを探り、方策を考えることでレベルアップに繋がる。 改善計画の内容が漠然としているので、個人チェックの結果も『何とかできている』が多くなってしまふ。『あまりできていない』『ほとんどできていない』評価の職員の手当てを考えると、サービスを良くしていける。 職種によって評価が分かれるが、それぞれの役割を持ち、チームでサービスをしているので、チーム全体として良くなっていけると良い。 今回の資料だけでは分からないが、年々良くなっていることが大切。実際のサービス状況を知らない推進委員が評価するのはとても難しい。	できている項目を継続し、それぞれの職種が連携・協力しより良い支援となるように取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者の安全に配慮しつつ、開かれた施設になるよう環境を整備し要望を頂いた、ポストの設置等の改善を進める。	要望を頂いたポストについては設置できた。安全に配慮しつつ環境整備することができた。	特に意見は無し。	利用者の思いを阻害しないよう安全にも配慮し、居心地のよい施設となるよう環境整備する。
C. 事業所と地域のかかわり	地域のイベントや日中活動を通して地域の方とのふれあいの機会を増やし、利用者・職員・施設が地域の一員であることを意識した支援を行う。	地域との関りについての意識づけは段々と向上し、イベント等に参加することができたが、充分であるかは評価が難しい。	地域からの相談は包括が担っており地域の困りごとの相談先まで多機能が担うことを求められるのか？→小規模多機能は、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう支援することを求められている。そのため、普段より地域と繋がっていることが必要とされている。すべてを多機能のみで対応するのは限界があるため、包括との連携は重要。	日中活動や地域行事への参加を通して利用者・職員が地域との繋がりに意識を高め また、地域の人々にも施設理解を深め、地域資源のひとつとして認識されるよう努める。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	はしめ包括をはじめとする地域にある様々な機関や組織と連携・協力して利用者の在宅での生活を支える。	多機能の利用だけでの支援が多くなりがちで、他の機関等との連携がなかなか取れていない。	町内会と事業所は、お互いに相談しながらお付き合いをすることができている。町内行事や学区行事への参加等の要望があればぜひ対応していきたい。利用者や職員等その時々状況に合わせて無理なく引き続きお付き合いをしていけると良いと思う。	地域資源のひとつとして、はしめ包括や町内会等の様々な機関と連携・協力する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	今後とも運営推進会議を通して事業所の取り組みや改善点を報告・相談する。	運営推進会議にて事業所の取り組み等を報告し、サービス評価を通してご意見をいただいた。また、防災についても様々なご意見、アドバイスをいただいた。	特に意見は無し。	今後とも運営推進会議を通して事業所の取り組みや改善点を報告・相談する。
F. 事業所の防災・災害対策	地震だけではなく地域の特性でもある水害についても防災意識を高め訓練を重ねる。	避難訓練を通して防災意識や避難行動の認識は向上している。水害避難についても、まずは垂直避難との意識付はできた。	やはぎ苑は周辺の建物よりも強い構造と思われる、洪水等の災害時には外へ逃げることを考えるよりも、建物内に残った方が安全なケースが多いように思う。	防災訓練の実施により、防災意識を高め避難誘導等の練度を深める。また、施設の防災設備の運用理解も高める。